

第4号

企画・編集

加藤順一・鈴木奎三郎

岡田吉郎・増田富一他

練稲Press

発行者 ・ 関博之
 練馬稲門会事務局
 練馬区豊玉南3-6-2
 第2春日ビル2階

頑張ろう日本！強めよう稲門の絆

春爛漫・足取り軽く観梅もにぎやかに



東日本大震災の傷はまだ癒されず、時は、帰り、帰りして春は着実に巡って来ました。この他寒さが厳しかった今冬。良いことも、悲しい出来事も多々ありましたが、我が「練馬稲門会」は、各サークルが頑張って、肩を組んで陽光眩しい日を迎えました。「歴史ウォーキング部会」は3月15日、青梅市の吉野「梅公園」へ、観梅に出かけました。咲き誇る花々。澄んだ大気の中、梅を探して、約2時間。多摩川添いの「吉川英治記念館」まで初ウォーク。

スポーツを楽しむ会

いよいよ東京六大学野球の春季リーグ戦が4月13日(土)より始まりました。2012年の春季リーグ戦では優勝しましたが、秋季リーグ戦では勝ち点が法政と同じ4で並ぶものの勝率の差で惜しくも2位に終わりました。今年の早稲田は投手で有原(3年)、吉永(2年)2人の活躍が期待されますので昨年に引き続き優勝争いが出来そうです。以下は早慶戦の観戦日程です。

6月1日(土) 早慶戦第1戦 特別指定席(バックネット裏)

6月2日(日) 早慶戦第2戦 特別指定席(同上) 第1戦後いつも懇親会をしておりますが、今年の第2戦後は

練馬三田会と一緒に日本青年館で、第1戦後は何時もの新宿の「日本海庄や」で行います。5月中旬に観戦案内を練馬稲門会のホームページ及びメールにて送る予定です。

メール: neritou@waseda-info.com

FAX: 3994-8219

参加を希望される方は、稲門会事務局にご連絡願います。

富塚部長
小島忠夫

早稲田必勝の気合いで臨みます。



酒楽会会長

リーダー登場

華岡 正泰さん(82歳)

人には、たかだかとした容貌を見せる方々がいる。物言い一つにも自然と悠々たる風情がある。華岡さんのそうした面持ちは見事と言うしかない。あの華岡青州から数えて五代目になることは「練馬稲門会」では知らぬものはない。

世界で初めて「全身麻酔」を施した青州は、遡れば「楠正成」一族の流れを継いだ名家だった。その嫡流を継いでいる。「青州」は号で、本名は震。医師としての号は「随賢」。

もし華岡さんが医師であつたなら「随賢」を名乗っているはずだが歴史は思わぬ展開を見せるのは常のこと。福岡県に生まれて時代の変転で、海軍兵学校予科生徒に合格し、昭和二十一年一月には入校の予定だった。「軍国青年でした」と静かに言った。そのまま戦争が続けば海兵七十九期生となつて戦場にいたはずだった。

早稲田大学との縁は「終戦間もなく早稲田の野球部員が大隈侯の墓参をかねて佐賀を訪れました。旧制高校生のパンカラ風が嫌で、其の時に早稲田の学生が黒い詰襟でシャンとしていたのに感激しました」と当時を振り返った。パンカラ風の旧制高校生にあつた「エリート意識」をちゃんと見破っていたのでしょう。

それからが苦労だった。親には内緒で高等学院を受験して、反対を振り切って上京した。アルバイトの明け暮れで商学部に入學した。弟と一緒に四畳半の下宿生活だった。

いつの間にかインターナショナルな雰囲気になじむようになったのはアルバイトをかねた「英語」の勉強だった。人の繋がりには不思議だ。商社への道をごく自然に歩む。初任地はミャンマー(当時ビルマ)香港も長かった。

やつと落ち着いた時に突然の脳梗塞が襲った。「覚えてます。ロッキード事件で、同業の丸紅幹部が国会で証人喚問されてるのをテレビで見て、風呂に入った。その時に頭にひどく重い衝撃があつた」。以後二十八日間意識不明。奇跡的な復活だった。やがて住むつもりで大阪に新築した家は「阪神大震災」で全壊してしまった。奥様の縁で練馬に移つて十六年。しっかりと練馬に足をつけた。さわやかな見切りは持つて生まれたものとは言えない。苦闘の中で身についたものだろうが、苦闘を表に出さずに来た。学ぶべきは多い。(文責・加藤)



「それもこれも、稲門会の皆さんに出あってこそ。楽しいですなー」と常に友人を思う。

釣れても・釣れなくも 部会発足

新しい部会です。まだ正式な部員募集はしていません。現在6名。昨年7月23日に千葉県・相浜港よりイサキ釣りに出かけました。絶好の釣り日和。わがトウシロウ軍団にも運が味方した。全員ボウズなく、目的のイサキが複数匹釣れました。船酔いは1名いたが、お祭りもなくともかくも1時から3時納竿まで全員が竿を出しコマセを振って奮闘した。イサキの他ハナダイ、ウマズラハギ等々6~10匹の釣果。シロウト軍団としては上出来である。これに気を良くして「釣り部」発足と相成った。

平成25年の予定。5月中旬キス、三浦半島又は茅ヶ崎辺り。舟は貸し切りの予定(お祭りを考慮して)人数は10人以上。釣り具はレンタルを探しますが、自分の手に合った道具を希望の方は相談ください。

2回目釣行は5月です

シロギス、3回目は11月~12月頃アイナメ・カサゴを予定しています。入部希望者は部長・岡田吉郎(理工学部35年卒業)までご連絡をお待ちしています。



初級者歓迎・パソコン教室

毎週木曜日には、ノートパソコンを抱えた「IT派」の人たちが野方の「練馬稲門会」事務所に集います。

現在、会員は13名。女性も多い。まずは、パソコンの立ち上げから習います。理工出身の築山、岡田、法学部出身の山田氏の3名の先生が、熱心に教えています。

午前10時30分から1時間は初心者、午後1時半からは、相談室と、さまざまなパソコンの使い方を指導します。「教室」を始めて2年。ウインドウズ7、での文章作成から、チラシ、名刺、年賀状、そしてエクセルもと進歩。インターネットを使つてのテレビ電話では、会員の親族が居住する海外との会話まで進んでいます。エクセルは、多

くの人が卒業。写真の整理や、保存、新しく「jimdo」を使つてのホームページ作成にまで進みました。



練馬稲門会に新しい風が吹いた

第1回青年部ビジネス交流会開催



3月4日(月)に第一回青年部ビジネス交流会を練馬で開催いたしました。昨年発足したばかりの青年部は初めての試みであり、またメンバー不足に悩んでおりましたが、結果的には全員で23名(うち現役の学生が4名)、20歳前後から現役バリバリの女性社長までバラエティーに富んだメンバーに、会場は熱気で溢れ、また近隣稲門会の青年部有志と言うことで、板橋青年部、中野青年部からも2名参加し、青年部らしく交流を深めることが出来ました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

若手へのバトンタッチを

ビジネスに関するディスカッションを目的とし、以下のテーマについて研究会を行いました。会場は練馬にあるカフェ「ぱんぷきん」を貸し切りで利用しました。

稲門会の先輩たちに負けじと、新しい風を皆様にお届けできればと熱心な討論が展開されました。

テーマ・講師は次の通りです。

株式会社 MARIO DEL MARE・下平社長

『Design That Changas The World!』

高付加価値を生むデザイン紹介。(デザイン建売・デザイン墓石等)

ガリペット株式会社 国陶社長のフランス流少子化対策ビジネス。

Aifa Apazio 奥村社長

それぞれの業界で活躍している代表でもあり、話の内容は体験や実践話が主体で、今後の提案や、特に新しいビジネスモデルに関する提案はとても貴重な話だったと思います。下平社長のデザインが商品価値を変える話、フランス生活が長かった国陶社長は少子化高齢化にも触れ、奥村社長はヨーロッパデザインのトレンドから生活を豊かにする話をいたしました。懇親会は場所を移して、イタリアンレストランで乾杯。嬉しかったのは、早稲田の繋がりビジネス交流が出来たことです。青年部の皆さんが、何らかの刺激を受けて、今後のビジネスに役立てば大成功です。

翌日のメールで「今回はプレゼンさせてください」「仲間も呼んで参加したい」などの反響でした。次回は春過ぎころを予定しております。

青年部幹事 小野惣一(昭和60年理工卒) 小野商事株式会社 代表取締役

熱海に集まってスタート

平成24年は円高、ドル安でアメリカ、グアム、中国、韓国への旅行は絶好のチャンスでしたが、ギリシャの財政問題、中東のアラブの春騒動など治安に不安が。そこで無難な韓国への「新発見ソウルの旅・3泊4日」を実施しました。「台湾」へと思いつつ、中国との尖閣列島問題、韓国との竹島問題とややこしい事態に。そこで、近くの温泉でもと、「熱海温泉大感謝祭」に3月10～11日に参加。総員13名。東京駅10番ホームへ集合。踊り子号で一路熱海へ。熱海駅からバスで「梅園」へ直行。ところが、梅はほとんど無く葉梅状態で、入園料も300円が100円に値下げでした。

「紀州鉄道熱海ホテル」に到着。ゆっくりと温泉につきり期待の「大宴会」。

いつもの通り、麻雀組、酒豪組、就寝組に分かれての

のお楽しみ。

「お願い」があります。自薦、推薦どちらでも結構です。

「旅行部会」の委員、部長を募集しています。現幹事の石川正利君は、「ウォーキング」の部長と兼任です。現部長の小生田口は持病がありご迷惑を。どうか希望者は田口重樹までご連絡をお願いいたします。





「七福即生」めでためでの七福神詣で

歴史ウォーキング部全開

「歴史ハイキング部会」と「ウォーキング部会」が合併して初めての伝統「七福神詣で」が1月5日に行われました。今年は、少しばかり遠出で「旧東海道」添いの品川宿「東海七福神」様のお参り。午前10時に京急「大森海岸駅」に43名が集合。駅近くの「磐井神社」に祭られた「弁財天」に新春のご挨拶。ここから旧東海道を日本橋に向かってスタート。約15000歩で、満願の「品川神社」の「恵比寿様」へ。めでたく全員歩き切りました。同神社の参道にある居酒屋で、祝杯。

歴史ウォーキング部会は、これをスタートに原則2カ月に一回のペースで「ウォーキング」を企画します。皆様のご参加をお待ちいたしております。

会員募集中・すぐに事務局へ



料理を楽しむ会が始まった

不可能はないwasedaマン達

2月25日月曜。豊玉高齢者センターの一室で第1回「料理を楽しむ会」が開かれました。用意したレシピはピカタ。豚ももの薄切り肉、豆腐、鶏ささ身、茄子の4種です。集まったのは「本当に料理出来るの」という男性ばかり10名。5名ずつ2班に分けて、それぞれ2種づつ作ればいかなと思って、2つの調理台に包丁、まな板などを準備。やがてレシピの作り方を見ながら「こんなもんかな？」と茄子を切ったり、玉子を割ったり。さすが高学歴の男性ばかり。食材を切る人、小麦粉をまぶす人、玉子液に漬ける人、焼く人、盛る人と流れ作業でやっていました。私は別のガス台を使って、ニラの玉子とじスープを作りました。料理が出来上がるころにタイミングよくご飯も炊きあがり、空いた調理台に料理を並べて、記念写真を撮って皆で会食。作った感想や味についての思いなど、「これが我が手による料理だ！」と大満足でした。時間帯は13時から17時まで借りたのですが、1レシピだけだったこともあり、調理に要した時間は約1時間。会食に30分。後片づけに30分と全行程2時間で終了しました。早く終了したこともあって、駅前で反省会。部会名の通り楽しく作って楽しく食べて親睦を深めた1日でした。文・仲山典美部会長

(記念すべき参加者) 加藤、新井、小島、関、築山、松本、山田、石川。

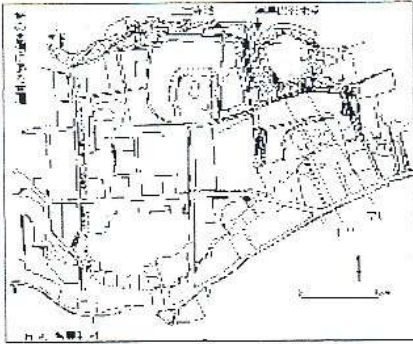
あれこれ余論

練馬にも城があった 「石神井城」の話(2)

八巻 孝夫(中世城郭研究家)・昭和45年・法卒

石神井城の本丸

今回は、石神井城の本丸に許可を得て入ってみよう。フェンスの扉を開け土塁を登ってみると意外にこの土塁は大きく幅が広い。ここに防御用の柵や弓を射る櫓などがあれば、かなり強固な防御となりそうだ。この土塁の上から本丸の内部を除くと、相当広い空間があることが解る。あえて坪数に換算すると、約1700



坪もあるらしい。だがここに豊島氏の屋敷が存在したかは不明だ。しかし、屋敷があったとしても、そこはあまり立派なものではなかったはずである。と言うのも、豊島氏に限らず中世の武士の屋敷は礎石の上に柱を建てる建物ではなく、柱をそのまま地中に埋める掘立の建物だからである。現代人の目には、粗末なものとして写るだろう。豊島氏は決して豪華な屋敷に住んでいたわけではない。現在は多くの樹木が茂り、かつての本丸であった面影はない。

石神井城の広さはどのくらい

石神井城はこの本丸だけで出来ていたわけではない。なるほど本丸は最重要な曲輪(「くるわ」と呼び、城

を構成する区画で、本丸、二の丸などのこと)であるが、殿様や重臣以外にもある程度の数の家臣がいたからである。この石神井城でいえば、本丸に隣接する氷川神社、三宝寺などの地も城に含まれている。つまり三宝寺池と反対側にある石神井川に挟まれた台地の全体が城だったのである。ただし、南の石神井川と北の三宝寺池は区切りとして良いが、西と東はどうだろうか。西には実は昭和30年代の初めごろまで外堀と土塁が残っていた。残念ながら、住宅地として開発されて土塁は崩され空堀は埋められた。そこは丁度三宝寺池の西の端の台地の上で、空堀と土塁が台地を輪切りにするように残っていた。

一方東の端は本丸の東の下で現在の三宝寺と道場寺間の道のあたりであった。この道自体は新しい。この道にちよつとずれた形で南北に延びる空堀が発掘されたのである。こうして見ると、石神井城はかなり広い範囲を城域にしていた。この城内に豊島氏本家の殿さま、家族、一族、重臣、家来、小者達が、城の中を区画して住んでいたのであろう。ただし、人数はさほど多くはなかったろう。

(続く)



石神井城址碑

全日本優勝も・テニス部会

テニス部会は2000年に5人で発足してから12年、会員数40名を擁するまでになりました。当初は喜久井町の理工総研のコート、所沢キャンパスのコートなどを借りて年3、4回ほど活動していました。その後会員増につれて練馬区の「施設利用カード」を作成して区の抽選に参加。区営高野台運動場や夏の雲(光ヶ丘)などを借りるようになりました。

2007年には第1回早関戦(対関学)がスタートし、これが部活動の転機となりました。2回の敗戦を経て選手の発掘強化に努め、区内と周辺の庭球部OBに手紙を出して入部を要請しました。それが効き庭球部OBの元主将、全日本優勝者に入ってもらいました。これにより、早関戦4連勝を達成しました。一方、区営コートでの抽選倍率は高まる一方で、平日でも4時間×2面を借りるのは難しく、練馬稲門会荻野会長のご協力で、2011年10月から春秋2回2面半日の学院コート貸し出しが実現しました。大学施設の校友会貸し出しのユニークな例として注目されています。

掲載の写真は2月20日(木)に開催された月例会の記念写真です。区営土支田コートでの3時間×2面です。ワセオケニューイヤークンサートを機に稲門会に入会し、同時にテニス部会にも入会した人(後列、背の高い人)が含まれています。数十年ぶりのテニスだそうです。テニス部会は全日本優勝クラスから初心者まで多士済々です。テニス人でまだ入会されていない方は一度試しに入会してみてください。稲門の雰囲気が良いのか、多くの方がそのまま入会されます。文・岡本龍蔵



山歩き会・雪山に挑む

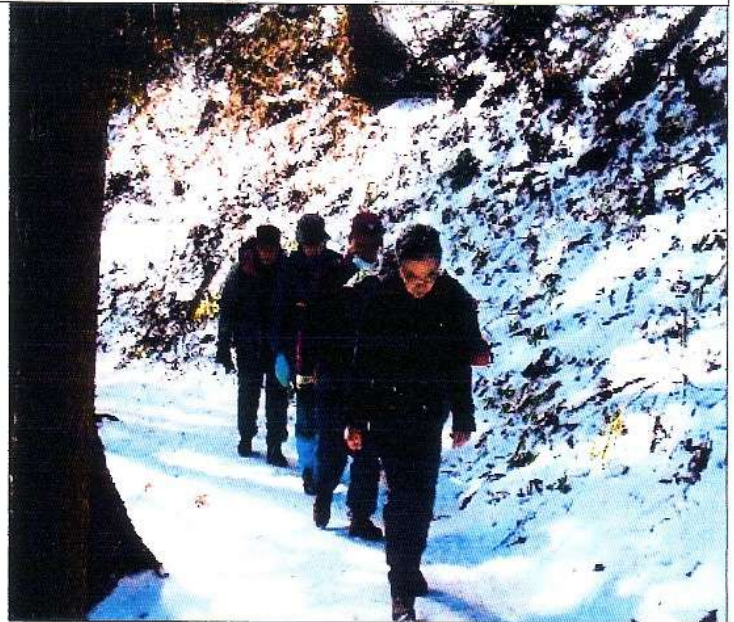
最低温度-2・4℃・アイゼン登場

2月16日。前日は雨。最大風速16.8M。小松会長の厳命により、急ぎ求めた「アイゼンの出番だな！」なんて武者震いして電車の人となったのはともかく、「日付けと時間をまちがえたかな？」と不安になったのも当然。拝島JR最後尾で合流したのは、練稲山歩き会多数いる会員の中で、自称「山の精鋭」わずかに5人。本日の山行は「山歩き」にあらずして、正しく「行中登攀」の真骨頂。山ガール抜きだからこそ、ますます濃くなる我が野郎同士の太い絆。そうです、。数日前には雪が降ったし、このところインフルエンザの猛威の真っ最中だもんね〜。

何と！杞憂に終わるとはこのこと。9時01分御岳駅着。ケーブル組は御岳ビジターセンターで徒歩組を待ち、一同、参道の階段で汗を流し御岳神社10時44分着。冬の陽光さらに温かく、残雪の眩しさに目を細めて気づけば全くの無風。

「日の出山」山頂が手に取るよう。

折角のアイゼン初体験は、小松会長のご判断によれば「今日がギリギリ、まあ装着しなくても良いでしょう」となると一同より慎重に歩を進めて、12時「日の出山」山頂へ。



霜と雪と泥んこ三種混合の中での昼食タイム。まあ、澄み切った空の先に新宿のビル街やスカイツリーまで遠望できるとは。「やっぱり来てよかったね」。とは口には出さねども、そこは男の故券。下りはゆっくり、焦らず、歩幅を小さく。一同無事に温泉へ。(谷川亘記)



熱唱また熱唱。マイクを持ったら放さない集まり。演歌あり、懐かしきフォークありで、楽しいひと時が過ぎせま。腕、いや喉に覚えのある方のご参集をお待ちしてます

練稲カラオケ部会

カラオケなんてひと前ではどうか、一人でしつとりと詠いたいとか。でも内心では俺(私)の歌を誰かに聴いてもらいたい。あるいは聴かせたい、と思っている人もいないではないでしょうか。カラオケはどうも苦手と言っている人も歌ってみると意外と上手い場合もあります。いきなり歌っても上手く歌えるものでもありません。プロでも一日何時間もボイストレーニングをするんです。何度も歌っているうちに声が滑らかになります。

定例会は毎月だ第三月曜日午後4時から7時まで。

場所・西武池袋線中村橋駅南口、上杉通りパブ「けやき」

詳細は下記までお問い合わせください。

木村光宏 kimura@minos.ocnos.ocn.ne.jp

携帯 090-2624-8866

ティータイムコンサート部・コーヒー・ビールを傾けながら生演奏

気楽に！コーヒーをそしてビールを傾けながら生演奏に聞き入り、リズムに身を任せるのも、時の落語家の噺の世界にしばし遊ぶのも一興かと思えます。会員相互の親善をはかり趣味の世界を広げていくことを目的に2年前から活動を始めました。会場は地下鉄新桜台駅から徒歩2分のところにあります喫茶店「チャーミー」。因みにこのお店は稲門会のメンバーである山田氏の奥様が経営されているお店です。開催は年4回を目標に続けています。今年1月は落語家、桂文治師匠の噺。これまでにカンツオーネ、ジャズ、ボサノバ、鳥歌、落語、手品等ジャンルを問わず幅広く行ってまいりました。席料は飲み物付きで2000円です。定員は25名程度ですが、まさに、これがライブと言う趣向です。

終演後は近くの居酒屋で二次会も。時には出演者の方も参加して話しの輪も広がります。連絡は、後藤修一郎・山田興太郎まで。



124名・最大のサークル・来秋は150回・ゴルフ部会

組織作りと競技ルール作りを

会員総数124名（平成25年2月現在、準会員を含む）に対応するために「幹事会」（現在10名で構成）の体制づくりが整った。その体制は以下の通りです。

NO	氏名	役職名	担当。業務
1	中島 晴喜	部会長	総務。会計
2	清水 晃	副会長	運営・ハンディ
3	高崎龍介	幹事長	競技・ハンディ
4	戸津川隆久	副幹事長	競技・ハンディ
5	吉田幸治	幹事	広報（メール）
6	野田 明	幹事	広報（名簿）
7	蔵本武紀	幹事	運営
8	塩田順康	幹事	運営
9	西山隆司	幹事	運営
10	牛山彰紀	幹事	運営



ゴルフ部会の幹事の皆さん

「酒楽会」宴たけなわです

「酒楽会」は発足以来一年半を経過しますが、最初の一年は武田さんのご努力により月一回のペースで、現在は谷川さんのお力で、練馬稲門会の諸行事との兼ね合いを考慮しながら、年5回の予定で開催しています。

去る2月28日に開催した今年最初の集まりは28名もの参加者で会場は溢れんばかりの盛会でした。いつもの通り谷川さんの軽妙な司会ではじまりましたが、乾杯の音頭を取ったのが、酒は一杯もたしなまない、あの岡田さん。これが、愉快で楽しい我々の「酒楽会」なのです。顔ぶれは手塚、塩田、谷川、増田、梅原、築山、武田、後藤、山田、石川、小島さんといった14～5名の常連組にビールなら少々と言う鈴木さん、すぐにほんのりと頬を染める関さんが決まって顔を出されます。

年間8回の月例競技会の開催案内と参加者の確認並びに競技開催がスムーズに進行できる体制となってきています。しかし、当然ながら、近い将来組織の見直しや運営方法の改善を計って行くことになります。また平成24年8月の「幹事会」においてゴルフ部会の「規約」並びに「協議会会則」を制定して会員の周知を計るべく現在努力中です。そして、練馬稲門会並びにゴルフ部会に会員各位が入会して良かったと満足して頂けるようになれば良いと思います。

月例競技会は通算135回

競技会の内容については例年3月～6月（4回）、9月～12月（4回）と年間8回が基本です。ゴルフコ場は会員の所属コースなどを勘案し、交通の便も考慮し主に関越自動車道沿線にあるゴルフ場を設定しています。出来るだけ料金もリーズナブルになるよう折衝し参加者が名門コースでプレイしたいニーズに応える努力をしています。過去のオフシーズンではハワイ、グアムなどでもプレイしました。都内23区稲門会や首都圏稲門会との交流コンペや練馬三田会との「練馬早慶対応ゴルフ大会」

などもすでに10年以上経過しています。

来る平成26年秋には通算150回となり「記念ゴルフ大会」を開催することになりました。会員各位が数多く参加され、楽しめる大会にしたいと願っています。

事務局はじめ、各サークルの皆さんのご支援、ご協力を切にお願いいたします。

会員募集中・中島又は清水まで



会員にはその昔、早慶戦の夜、新宿や、銀座でストームをしていた豪の者も多いはず。それが、「酒乱会」ならぬ「酒楽会」であり続けるのは、皆馬齢？を重ねて老境に入り、悟りを開いたのか。会がはねると私は決まって誘われて二次会に参加します。皆それだけ元気なので。いいじゃないですか。（文責・華岡正泰）

一文に心血・エッセイ同好会

エッセイとは何か。辞書によれば随筆、随想となっている。見聞きした事や心に浮かぶ事などを興にまかせて書いた文章、と説明されている。どうもあまりピンとこない。あるエッセイストの定義によれば「自分の書きたいこと」を「他者が読みたくなるように」書くのがエッセイの基本要件だと言う。ということは「自分の書きたいこと」つまりテーマは自由に選んでいいが「他者が読みたくなるように」書かねばならないということのようだ。まあ平たく言えば、自分のいたいことを読む人にできるだけやさしく、わかりやすく書くこと。そして読み手に「あ、そう」ではなく「へえー、そうなんだ」という読後感をもってもらえるように書くことだともいえようか。

エッセイ同好会は現在18名。偶数月の第3土曜日に例会を開き、各自持ち寄った作品を読み上げて発表する。作品の内容についての質問や感想、称賛などは勿論OKだが、けなしたり、批判したりはしないことになっている。



書くテーマやスタイルは原則自由で縛りはない。来し方を振り返って自分史を残してもいいし、一定のジャンル（例えば音楽、文化、スポーツなど）についてシリーズで繋いでもいい。2ヶ月に一度とはいえ、皆の前で発表するのだから、やはり作品には心血を注ぐ。少し緊張をするのが楽しみでもある。「反省会」は談論風発。一瞬学生時代のコンパに帰る。（文・照山 忠利）

フィルム派もいる写真クラブ

発足してから3年となるのでそろそろ今年は「写真クラブ」の写真展を開催したい。毎月1回（第3水曜日が多い）。作品を「野方事務局」に持ち寄って各人が撮影の状況や、意図などを説明し皆で構図、露出などの批評があり2時間程度で終了する。撮影会も開く。昨年は、谷川部員の案内で「東京ゲイトブリッジ」に出かけた。出品

作品は、スナップあり、風景、花など多彩。銀塩（フィルム）派の人もあって楽しい時を。参加者を求めます。部長・岡田吉郎



奥深く、思慮深い・囲碁部

例会は毎月第3土曜日午後12時から西武線練馬駅近くの囲碁倶楽部「シャムロック」3階で熱戦を繰り広げています。（TEL03-5999-5236）。今年1月11日（土）に湯河原「杉の宿」で定例の合宿を行いました。総会を兼ねて、上期、下期の成績優秀者を表彰。年間計画は、◆定期豊島稲門会対抗戦◆6月・オール早稲田囲碁祭◆9月・稲穂会現役学生との個人戦◆11月・早慶囲碁大会。活動状況HP。

s-tsukiyama.jm
do.com
へアクセスしてください。



編集後記 加藤順一
◆門地、出自についてはあまり云々するのは良くはない。高齢者の多い集まりでは「言ってはならぬ」が原則。でも「県民性」と言う言葉は消えない。◆夏目漱石の「坊っちゃん」は「これでも俺は旗本の末だ」と鼻息が荒い。「やま嵐」は会津播土の末裔で、どっちも薩長にやられた敗戦組だ。江戸も会津も薩長に占領された。◆薩長に土・肥を加えて維新が進んだが、「雄藩」と言えばやはり薩長だ。長州は「伶俐」。薩摩は「豪放」。その印象が歴史を経ても消えない。太平洋戦争が終わるまで、薩長閥は軍（日本）を占領していた。◆大隈侯も、維新では戦勝組。だが、「雄藩」の後ろ盾が無かったから、参議時代その政治的行動は軽輩と言われた。江戸の気風は勝海舟に伝わるが、彼は徹底的に「雄藩」を利用した。◆大隈侯は、伶俐と豪放の狭間で権力の恐ろしさを知った。征韓論に反対、西郷を切る「合理性」を選んだ。勝はその両方を切り兼ねて左右し、左幕派に近かった福沢論吉から「瘦せ我慢」しろと揶揄された。◆非占領者の限界だ。「官軍」を「西軍」と言うのが精一杯の落とし所だった。早慶の戦いは続く。